

富山県がん診療人材育成拠点病院としての取組み(2019 年度)

病院名：富山大学附属病院

1. 教育：人材育成・再教育に関すること

「これまでの実績」

- ・ 院内では診療科（部門）が連携したカンファレンスを定期的に行い、医師の診断・治療レベルの向上を図る実践教育の場としている。昨年度から「先進医療 B」として始まった「がんゲノム医療」の普及・教育を行うためこの分野のエキスパートを招いて研修会を4回／年開催した。さらに急速な進歩を遂げているがん免疫療法に関しても国内の第一人者を招聘して講演会を実施した。日進月歩であるがん診療の最新潮流に後れを取らないよう、地域がん拠点病院としての教育体制を構築している。
- ・ 日本緩和医療学会 PEACE プロジェクトに基づいた緩和ケア研修会を開催するとともに、県内すべての修了者を対象とした「緩和ケアフォローアップ研修会」を年1回開催し、緩和ケアの知識の習得と実践の推進をはかっている。また、がん性疼痛にテーマを絞った「富山がん性疼痛研究会」を開催し、最新の知識の習得と症例検討を通してがん性疼痛治療のレベルアップを図っている。
- ・ 多様な新ニーズに対応する「がん専門医療人材(がんプロフェッショナル)」養成プラン採択に基づき、北信地区における医科系5大学（金沢大学、富山大学、福井大学、金沢医科大学、信州大学）、看護系1大学（石川県立看護大学）より構成され、北信地域における、がんの人材育成を推進している。本プランのスキームは、①がん教育改革、②地域がん医療、③がん研究者養成より構成され、富山大学附属病院では、本プランを通して、富山県内のがん診療連携拠点病院とともに、チーム医療のリーダーとして活躍できるがん医療スタッフの養成を図っている。
- ・ 上記の養成プランでは医師以外の医療従事者などへの教育を職種別に複数の教育コースを設けて実施している。看護師コース：在宅緩和リハ、薬剤師コース：高齢対策薬剤師養成など。これらのコースを通して、がんに特化した医療人の養成と教育の推進を図っている。

「今後の計画」

- ・ 今後も、集学的がん診療センターが中心となって上記の計画を推進し、事業の充実をはかっている。さらに、今年度は「がん診療における PDCA サイクル講演会」を開催

する予定であり、広く県内のがんに携わる医療者に対して PDCA サイクルに関する教育を行う予定である。

- ・ 医師以外の医療従事者など実務経験をした者に対しても、がん医療に特化した大学院教育・卒後臨床教育を協同的に行って、がん医療に貢献する人材を養成してきており、今後一層の充実を図る予定である。
- ・ 富山大学大学院看護学専攻博士前期課程では「専門看護師教育課程」として日本看護系大学協議会より認定を受け、富山県での「がん専門看護師」の教育を行っている。附属病院は富山大学大学院と連携を図り、高度な知識と技能を持つ看護師の教育を推進している。また、本コースの履修生は本学で設けている「地域がん看護師養成コース(インテンシブコース)」を受講することができ、がんプロとの協力体制を敷いている。

2. その他

(臨床や研究に関することなど)

「これまでの実績」

- ・ キャンサーボードやテレビカンファレンスなどを通して、各施設の専門医・メディカルスタッフとの連携を積極的に行い、がん関連の臨床研究・治験やトランスレーショナル研究の推進を図っている。また、これらの情報を県内外に発信する研究会や講演会なども実施してきた。
- ・ 地域のがん患者に最先端のがん治療を提供し、富山県から新たなエビデンスを発信することを目的として、臨床研究や治験の推進を図っている。これらは院内の「臨床研究管理センター」と協力して進めている。

「今後の計画」

- ・ これまでの実績を通して、富山大学附属病院を中心としたがん関連の臨床研究・トランスレーショナル研究が進行中であり、今後これらの一層の充実を図っていく予定である。